

いざ、ぶどうとばし世界大会!

2つ目の世界記録獲得へ



甲州市にギネス世界記録があるのをご存知ですか?
ぶどうの生産地として知られる甲州市は、2014年に「ぶどうとばし大会への参加人数の多さを競う」挑戦をワールドレコーズに申請し、大会参加人数891人で記録を樹立しています。そして今年、同大会を主催する甲州青年会議所は2つ目の世界記録獲得を目指して新企画を構想。再び、地元資源であるぶどうを生かした世界への挑戦とは?甲州青年会議所の雨宮孝浩広報拡大委員長、西海達彦理事長、岡二成広報拡大副理事長に話を聞きました。

甲州ぶどうを世界にアピール 甲州青年会議所の刃えわたる閃き

そもそものはじまりは、2014年2月の雪害で大きな被害を受けた地域を元気づけ、町をアピールすることと経済効果を狙うこと。特にぶどう農家へのダメージが深刻でハウスの8割が全半壊。多額の費用がかかることから再建を諦めた農家もたくさんありました。また、ぶどうはすぐには育ちません。収穫量が減少し、産地の影響力が薄れてしまえばブランド力も落ちます。意気消沈する町と農家。その現状をなんとかしたいと考え、行動したのが甲州青年会議所の若者たちでした。

「町を盛り上げたいと考えました。そこで、地域資源を使ってなんらかの世界記録に挑戦という方向性を思いついた。甲州ぶどうのPRになりつつ、たくさんの人と一緒に目標に向かうことができる企画なら、町を元気にできるのではないかと」
こうして練られた企画が「ぶどうとばし」と雨宮さん。当初は個人によるぶどうとばしの飛距離での記録挑戦を考えていたと言いますが、より多くの人が参加できる仕組みやこ

れまでない挑戦形態を考えたところ「ぶどうとばし大会への参加人数」の世界記録に挑むことになりました。

「ギネス記録」の高い壁 挑戦は簡単なコトじゃない

2014年の挑戦当日は、国内外からの参加者を迎え891人が集まり、ワールドレコーズの認定員からギネス記録公式認定を受けた。
『自分たちの手で本当に獲れた』という高揚感と達成感を味わうことができました」と話す岡さん。資金の確保から運営ボランティアを集めること、当日のケアまで、未知への挑戦だった分、苦労は大きかったそうです。

2度目の挑戦となる今回も準備は簡単ではありません。ぶどうとばしの飛距離で公式に世界認定してもらうためには、飛んだ距離はもちろん、飛ばし方や、飛ばすぶどうの大きさ、重さ、なども細かな決まりがあります。世界記録は記録を樹立するのが難しいことはもちろんですが、その舞台準備もまた一難。あらゆる公正公平を証明するための支度や申請のための資金集めなど、運営陣の見えない努力は山ほどあります。



町づくりに前向きな若者たち 資源をつなげ、新しい賑わいを

もっと気軽に参加してほしいと、甲州青年会議所の雨宮さん。「JC1」というと敷居が高いイメージがあると思います。活動内部が外に見えにくく、『財力のある若者が慈善活動をしている』というイメージも少なからずあると思う。だから我々ももっとオープンにして、みんなに知ってもらわなければと考えています。甲州青年会議所の立ち位置としては、地域社会に貢献する活動をした人が気軽に入っていける入り口。活動に参加することで視野が広がり、時間の使い方が上手くなり、仕事に生かせるスキルが身につくこともあるとメンバーは言います。



今年の大会のみどころ 世界記録、誕生するか!?

かつまぶどう祭りの名物的イベントとなったぶどうとばし。4回目の開催となれば、楽しみに待っている人も少なくありません。昨年の参加者は1500人を越え、飛距離9mを越えた記録もありました。
「現在の世界記録は8m72cm。」

ぶどうとばしに挑戦!



今年も記録申請をする準備も万端です。それを越える記録を期待しています。この地で2つめの世界記録を樹立したいですね。記録を1つ持っている市町村はほかにありますが、2つ持っている市町村は多分ありません。町の人の誇りの一つになればと考えています。(雨宮さん)

ぶどうやワインの試食や試飲など、この地域の秋の味覚を堪能できることはもちろん、祭りの醍醐味といえば参加者たちの元気な笑顔。「純粹に楽しんでほしいですね」と西海さんは話します。地域に根付く文化や資源を生かし、人々と一緒になって楽しみながら盛り上げる。そうして町に笑顔と活力を与えてくれるイベントがぶどうとばし世界大会。世界記録の誕生、ぜひ期待したいですね。

ぶどうとばし世界大会
甲州市かつまぶどうまつり
8.72mを超え! 新たな世界記録を甲州に!
日時: 平成29年10月7日(土) 10:00~16:00 (最終受付 15:30)
場所: 甲州青年会議所(甲州市) 甲州青年会議所